
四日市市子ども・子育てワークショップ 報告書

平成31年3月

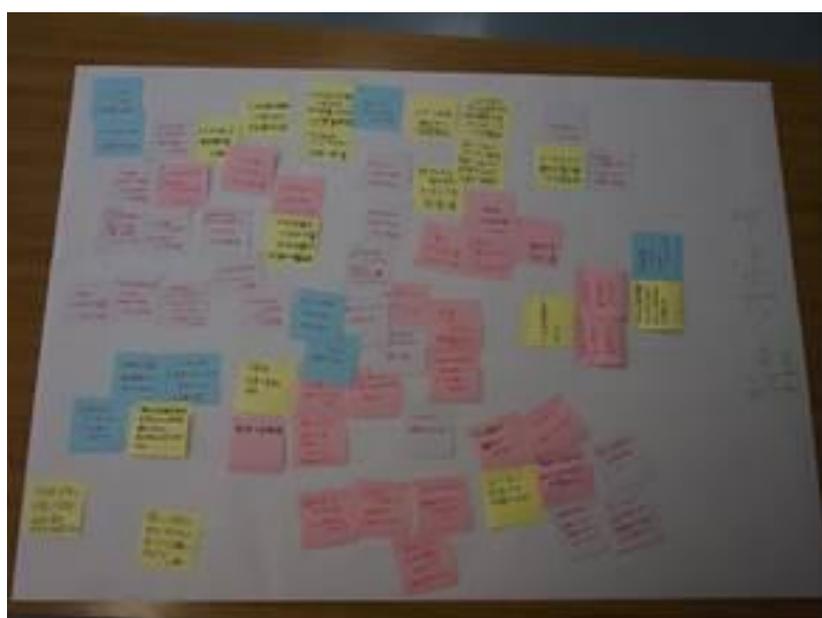
1. ワークショップの目的

平成 32（2020）年度を始期とする 5 年間の「第 2 期四日市市子ども・子育て支援事業計画」の策定に向けた基礎資料とすることを目的として、平成 30 年 10 月から 11 月にかけて実施した「子ども・子育てに関するアンケート調査」の回答者の中から協力者を募り、「子ども・子育てワークショップ」を開催しました。

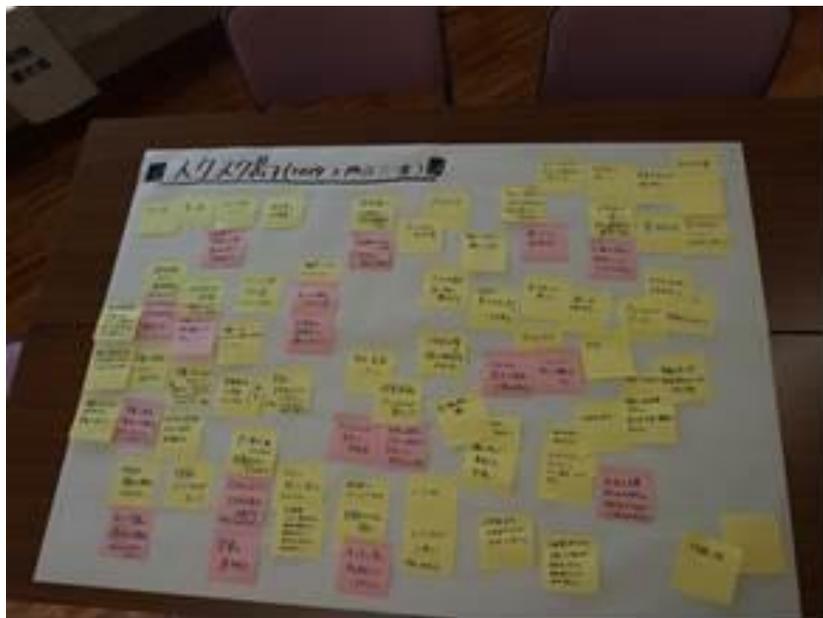
ワークショップでは、アンケート調査では把握しきれない保護者等の生の声を聴き取るとともに、四日市市が「子育てしやすいまち」としてどんなまちになるとよいか、どんな取り組みをしていくとよいかといったことについて話し合っていました。

2. ワークショップの開催日時、会場、参加者数

回	日程	時間	会場	参加者数
第 1 回	平成 31 年 3 月 16 日(土)	午前 10 時～正午	大矢知地区市民センター	13 人



回	日程	時間	会場	参加者数
第2回	平成31年3月16日(土)	午後2時~4時	三浜文化会館	11人



回	日程	時間	会場	参加者数
第3回	平成31年3月25日(月)	午前10時～正午	橋北交流会館	12人



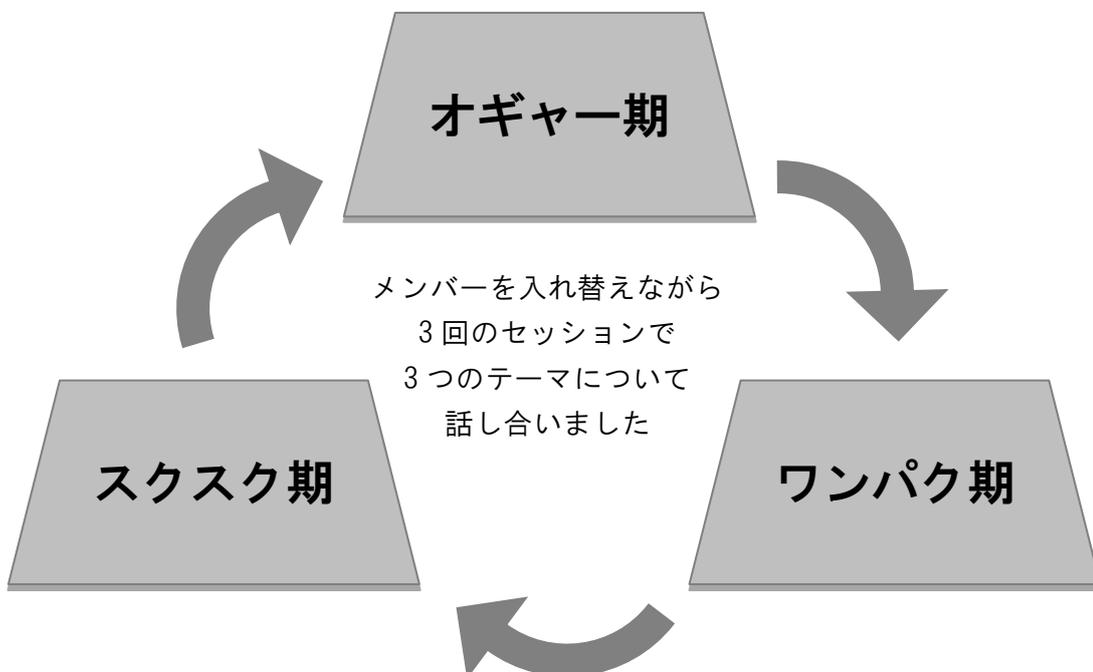
3. ワークショップの進め方

ワークショップは、次のようなプログラム構成にて開催しました。

プログラム構成
アンケート調査結果について報告
ワークショップの進め方について説明
アイスブレイク
セッション① 25分
(移動)
セッション② 25分
(移動)
セッション③ 25分
全体での振り返り
閉会

4～6人を1グループとしてメンバーを入れ替えながら、3回のセッションで3つのテーマについて話し合っていました。

3つのテーマは、子育ての時期に合わせて「オギヤー期（妊娠・出産～乳児期）」、「ワンパク期（幼児期）」、「スクスク期（通園・通学期）」とし、それぞれの時期に感じた困りごとや、それぞれの時期に向けた不安、また、それらの困りごとや不安に対して必要な支援、どうなっていると良いかについても意見を出していただきました。



4. ワークショップにおける保護者の意見まとめ

3つの会場で実施したワークショップにおいて、保護者から出された意見を項目ごとに整理し、要約したものです。

	妊娠・出産について	不妊等について	健康、医療、予防接種について	育児の負担感・不安感について	家事の負担について	子育ての情報、相談について	親どうしの交流・つながりについて	居場所、外出機会について	父親の子育てについて	地域での手助けについて
オギャー期(妊娠・出産・乳児期)	<ul style="list-style-type: none"> ○妊娠中の入院、安静が求められるときや出産時に上の子どもの面倒がみられなかった。頼れる人がいると助かる。 ○妊娠中に母親が集まれる場があるとよいが、産休に入るぎりぎりまで仕事をしていて平日開催では参加できない。子育て支援センターなどに「どうぞ来てください」と言われても、実際には行きづらい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○不妊に対する支援が少ない。不妊の悩みが相談しづらい印象がある。女性の悩みが相談しやすい雰囲気、場づくりができるとよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○医師が少なく、病院の待ち時間が長い。 ○予防接種がどの時期にどの順番で打つかわかりづらかった。適齢の時期に知らせてもらえるとうい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○特に一人めの育児については勝手がわからないため、夜中の授乳などによる睡眠不足も重なって、不安とストレスでいっぱいになった。 ○低月齢だと外にも出られず、孤独感もあった。ちょっとした時間でも助けが借りられるとうい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○育児で外に出られないときの配食サービスやネットスーパーなどが助かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ○市外から転勤してくると、どこに行けば同年齢の子をもつお母さんたちに出会えるのかわからない。 ○ネットやアプリの利便性を活用できるとよいが、いろんな情報があって迷うこともあった。特に転勤してきた人は情報が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○母親どうしのつながりの場がもう少し近い所にあるとうい。今回のワークショップのような語り合いの機会があると気も晴れるし、情報も得られてよい。 ○転勤族のためにまわりに話せる人がいない。子育て支援センターでは毎日会わないと仲良くなりづらい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○毎日のように子育て支援センターに出かけて息抜きしたり、友だちを作ったりできた。しかし、なじめない人もいて、引きこもりがちになる人もいる。家から出られる場所があるほうがよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○父親が頼りにならなかったが母親だけでは負担だった。妊娠期から父親としての心構えを育てられるとうい。 ○母親が安静にする必要があるのに、父親は仕事が休めない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○友だちどうしは却って気兼ねするので、お金で手助けが得られるほうがよい。簡単に利用できる地区の人のサポートがあると助かる。
ワンパク期(幼児期)			<ul style="list-style-type: none"> ○おやつばかりで、ごはんを食べない。食べ物のアレルギーのことも不安になる。 ○予防接種が充実すると良い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○親子二人の時間が長くなると気が滅入る。一人でのんびりできる時間がほしい。二人め以降は先が見えるので楽になる。 ○他の子と成長を比べて不安になる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○歩き始めるようになると買い物が大変になる。家事がはかどる時間帯に預かりがあるとよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○引越してきたので幼稚園の仕組み(「プレ保育」など)がわからない。 ○催しに関するホームページの情報を早く更新してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○子の年齢が近い人と話せると気が楽になる。子育て支援センターでは子どもを見ていので強いつながりはできない。また、グループができてしまっていて、入りづらいと感じる人がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○子どもに体力がついてくると出かける場所がないとつらくなるが、子育て支援センターが活用できてよかった。一方で、交通面や食事・トイレなど外出することへの不安もある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○父親が仕事を休めず、当てにできないので、むしろ当てにしないほうが心理的に楽だと感じた。 ○父親が手伝ってくれることが心苦しいと感じる人もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ファミサポは登録が大変であるため気軽に預けられず、金額も高いと思う。 ○自身が体調不良時に頼れる人がいない。
スクスク期(通園・通学期)						<ul style="list-style-type: none"> ○小学校の情報がない。行事などの連絡が直前にしかこないで仕事の休みなどの希望が出せない。ざっくりでもいいので、予定は早めに教えてほしい。 ○小学校以降の子育ての相談先がわからない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ママ友のネットワークはありがたいが負担になるときもある。割り切ることも大切である。 ○小学校に上がると親同士のつながりを持続するのも難しくなる。 ○PTAなど、親の「役」が多すぎて負担であるし、不安になる。 			

	発育・発達について	しつけ、生活習慣等について	きょうだいの子育てについて	友だち関係について	保育等の事業について	学童保育について	教育、学校について	遊び場について	仕事と子育ての両立について	その他
オギャー期(妊娠・出産・乳児期)					<ul style="list-style-type: none"> ○保育所に入りづらい。障害児だとさらに入園できる枠が少ない。育休時に上の子が退園しないといけないのも大変である。 ○少しの時間だけ預けたいが、一時保育がいっぱいだし、保育料も高い。 				<ul style="list-style-type: none"> ○妊娠しても仕事が忙しく、休みづらかった。時差出勤などの制度があっても実際には使えなかった。 ○保育料が高いので仕事をしても割に合わない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○出産時の交通手段が不安だった。妊婦タクシーに登録して安心できた。 ○市と民間とが協働することで可能性が広がるのではない。
ワンパク期(幼児期)		<ul style="list-style-type: none"> ○「イヤイヤ」にどのように対応したらよいかかわからない。しかり方も近所、周囲に気を使ってしまう。 ○トイレトレーニングなどがうまくできず、イライラしたりプレッシャーになったりすることがあった。 ○ゲームや動画をやめさせたい。それより楽しいこと、同年代と遊ぶことの楽しさを伝えたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○きょうだいにどう向き合うべきか。上の子を我慢させたり、下の子をほったらかしにしたりしてしまう。上の子の行事や人の手が足りないときに、下の子を預けられるとよい。 ○きょうだいできて得られるものもあり、3人目が生まれてケンカが少なくなった。 		<ul style="list-style-type: none"> ○保育園に入りづらい。途中入園は難しいし、求職中などの理由では難しいといわれる。育休で退園すると情報もなく、再入園できるかどうかわからない。 ○一時保育は事前の予約が必要で、緊急時に利用できない。病児保育は時間帯が使いづらい。 			<ul style="list-style-type: none"> ○安心して遊べる場所がなく、近くに公園がない。あっても自由に遊べない。気軽に遊べる場所がほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○子どもの通院のために有給休暇を使ってしまい、自分のために使えない。 	
スクスク期(通園・通学期)	<ul style="list-style-type: none"> ○多動などの発達障害が気になり不安になる。小学校に上がるときに壁がある。ツメかみなどの子どもの行動にも理由があるため、こつこつと本人に理由を聞くことが大切である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自己主張が始め、言うことを聞かなくなったときの対応が大変だった。 ○朝起きられず、時間通りに家を出ることができないこともある。 		<ul style="list-style-type: none"> ○友だちとのかかわりが重要だが、地域の幼稚園だとその後のつながりがあるが、バス通園や学区の違いにより友だちができないこともある。 ○人とのかかわりを学ぶために保育園に入れたほうがよいのかどうか悩ましい。 ○登下校時など、子どもどうしのトラブルにどう対応すべきかが分からない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○地域とのつながりを考えると公立幼稚園が希望だが、3歳児保育がない。思い切って働くことで、保育園に預けることも選択肢にしてはどうかと思う。 ○0、1歳児の定員が足りず、待機児童が多いと聞く。きょうだいと同じ保育園に入れなかった。きょうだいと同じでないのは大変である。 ○園でのようすがわからない。バスで送迎だと担任の先生とも会わない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学童保育の情報がなく、地域による差がある。市が情報をまとめてくれるとよい。 ○学童保育に3年までしか通えず、それ以上の学年はタクシーで乗り合わせて隣の地区の学童に向かうところもあると聞く。 ○学童保育は6時に迎えに行かなければならないため、フルタイムの勤務では預けられない。 ○学童保育はボランティアのイメージがあり、災害時にきちんと対応してくれるのかどうか心配である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○小学校が遠く、大きい道路もあるため、通学に不安がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○外遊びができる場がない。休日に幼稚園や小学校のグラウンドで遊べるとよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○夏休みなど、小学校に上がってからの仕事との両立が不安である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○周りが皆、習い事をしている。習い事をさせるべきかどうか迷っている。